

若者のひろば

日本の高校生になった 難民少女 Ali Lareib

今回の若者は伊勢崎商業高校2年のアリ・ラレブさんです。パキスタンから日本にやってきた難民少女が一昨年の明石杯英語スピーチコンテストで自らの体験を語り第2位に輝きました。その時のスピーチを編集部で翻訳したものを紹介します。

「難民」という言葉はあなたにとってどんな意味をもちますか。辞書には「難民とは、危険な生活環境のために国を去らなければならない人」とあります。でも私にとってその言葉はより良い生活を得るチャンスなのです。

私は15歳の時に家族といっしょに日本に来ました。その前に滞在した中国では少なくとも父は言葉や文化について知識がありましたが、ここ日本では私たちの家族5人にとってすべてが初めてのことでした。そして難民として家族も私も様々な困難に直面しました。たとえば、私たちが日本にきたとき、両親は働くことを許されませんでした。私たちには短期間有効なビザしか与えられず、いつになったら滞在が許されるのか、または退去を命じられるのかわかりませんでした。それに、持参したお金は毎日どんどん少なくなっていき、私たちの立場のためにお金を借りたりいろいろな支援を受けることができませんでした。

今日のスピーチのために、私はみなさんにある物語をお話します。つまりそんな私がどうやって今日ここに来られたのかというストーリーです。私の故国はパキスタンです。そこで私は2000年に生まれました。しかし私たちは毎日の生活がとても危険だったのでどこかに移動しなくてはなりません。そこで私が14歳の時に家族は中国に行きました。そこに1年半滞在しました。中国では外国人は公立学校に入学することができませんでした。そこで外国人は私立学校に入ります。私立学校はとてもお金がかかります。そのために私は中国では勉強することができませんでした。私のおじの話では、日本の学校教育は優れていて、学資の面でも外国人でもだいじょうぶだということでした。そこで私たちの家族は日本に行くことにしました。

私が日本にきたとき、私は15歳の誕生日を6ヶ月過ぎていました。兄妹と私は学校に行こうと決めて、入学の話をするために市役所に行きました。市役所で私は、中学に入学するためには15歳未満でなければならないという伊勢崎市の規則を伝えられました。私は15歳と6ヶ月でしたから中学には入れないのです。私は大泣きしました。なぜなら私は勉強するために日本に来たのですから。学校に入れなかったら私はどうやって勉強するのでしょうか。でもその時、ある人が言ったのです。「あなたは日本で勉強できますよ。猛勉強して頑張れば」と。そこで私は覚悟をきめて日本の高校生になるという目標を立てたのです。

その当時、私は日本語はまったく話せませんでした。そこで私は基本的な日本語を覚えるために日本語を教えてくれる教室に行きました。そこで数日学んだあとで先生が未来塾（注）というアカデミーのことを教えてくれました。私たち家族は難民ビザを申請していたので両親は6ヶ月間は働くことができませんでした。だから私たちはお金のかかるアカデミーには通えません。そこで私は未来塾に行って私の事情を話しました。未来塾は私を応援してくれました。先生たちはボランティアで私に教えてくれました。外国人にとって日本語を学ぶことはとても大変なことです。特に漢字は難しいです。漢字はたくさんあるうえに一つの漢字にいくつもの違う意味がありますから。私は未来塾とほかの日本語教室に通いました。

未来塾の先生が私に言いました。もし私が故国で9年の義務教育を終えていたら試験をパスすれば高校に入ると。でも私は9年間を終えていなかったため日本で中学校卒業認定試験を受けて合格しなければなりません。2016年の10月に私は中学校卒業認定試験を受けました。準備の

時間はあまりありませんでした。5 か月間でたくさんの漢字などをおぼえなければなりませんでした。第1回目のトライで私は「英語」「数学」「社会」に合格しましたが、勉強不足のために「国語」と「理科」が不合格でした。とてもがっかりしました。でも翌年も猛勉強を続けました。2017年10月に私は2回目の試験を受けました。今度は合格しました。

私は高校入学に備えて、努力を証明するために他の科目のテストも受けました。そして今年の3月、伊勢崎商業高校の入学試験を受けて合格しました。そして今みなさんの前に、難民である私が学校の代表として立っています。

これまでの辛い時期に私はこの先、学ぶことができないのではないかと思う瞬間が何度かありました。希望を失うこともありました。でも私の両親と兄妹は私を励まし続けてくれました。だから私は一生懸命に勉強して目標を達成しようと思いつけることができました。私は頑張り続けて目標を達成することができました。でもたくさんの日本語、まだおぼえていない日本語を学ぶための猛勉強は続きます。漢字にはまだまだ苦労しています。うんざりすることもありますがあきらめるこ

とはありません。最近も漢字が分からないために試験でミスしましたがとても悔しい思いでした。それでも私は希望を持ち続けて努力を怠らずに勉強を続けます。私の話が希望を失いかけて夢をあきらめようとしている人に役立ったらと願っています。夢をあきらめないでください。神様とあなた自身を信じて辛いことにもたえてがんばって夢を実現してください。最後に私のモットーを聞いてください。「永遠の命があると思って夢を抱け！今日限りの命と思いながら生きよ！」

(注) 伊勢崎市内で外国人の子どもに日本語教育を行っている「子ども日本語教育未来塾」。「育ちと学び」41号にその活動が紹介されています。



1月に開催された新英研関東ブロック集會に招かれて自分の体験をスピーチするアリラレブさん

Dream as you will live forever, live as if you will die tomorrow.

このスピーチから1年が過ぎたいま、高校2年生のアリさんにインタビューしました。

Q: 学校生活はいかがですか？

A: 大変なこともあります。一番大変なのは漢字です。日本語検定に落ちました。その時はもううんざりして落ち込みました。しばらくして私は自分に言い聞かせました。「あなたは挑戦することが好きでしょう！そして4歳から今までずっと頑張って勉強してきたのでしょ！それなのにどうしてあきらめることができるの？それってただの漢字でしょ！それがあなたの目標やこの先の行動を左右するわけではないわ！この先ががんばって勉強を続けるのかあきらめるのかを決め

るのはあなたでしょう！」と。こうやって私は自分自身を勇気づけています。今は国語と歴史で良い点がとれるように一生懸命に勉強しています。新しいことを学ぶこと、人生の挑戦を受け入れることは楽しいです。

Q: 卒業後の進路を考えていますか？

A: ネットワーキングを学びに大学に行きたいですがまだ確かではありません。

Q: 好きな日本語はなんですか？

A: 「頑張れ」と「よくできました」です。

編集部より ◆新英語教育研究会関東ブロック集會で会ったときに、私がアリさんに日本語で日本の生活について質問すると「日本はイスラム教徒にやさしい。私たちが食べられるものがたくさんある」と上手な日本語で答えてくれました。猛勉強していることがわかりました。がんばれ、アリさん！ ◆シリーズタイトル「若者のひろば」「誌上ギャラリー」「虹色のひろば」は2019年7月発行の「育ちと学び」の本欄に登場した星野夏海さんにデザインしていただきました。